

子どもの治療をきっかけに母子で治療を行った成人アトピーの経過 (40 代女性)

症例 ID：001-40-FC | 記録日：2016 年 8 月 6 日

1. 診断・治療前経過

次男のアトピー治療をきっかけに松本医院を受診され、当時 3 か月の次男を漢方風呂に入れるため本人も一緒に入浴しました。その後、ふくらはぎに痒みが出たため、次男の初診 1 週間後に本人も受診されました。

治療開始時点では、本人が生活に支障を感じるほどのアトピー症状は強くありませんでした。過去にはニキビや蕁麻疹で皮膚科を受診したことがあり、内服薬や注射歴もありました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	皮膚科以外を含む薬剤使用歴があります。ステロイド内服または関連薬剤の関与が疑われる経過ですが、本人が長期外用していた具体的内容は不明です。
製品名	セレスタミンの可能性が示されていますが、詳細は不明です。
強度	不明です。
使用期間	不明です。
中止時期	不明です。
来院前／後	来院前の薬剤使用歴があります。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
平成 17 年 4 月	治療開始	次男の受診をきっかけに本人も治療を始めました。
開始後 3 か月頃	初期	手の甲の薄茶色の変化、足のむくみを感じ始めました。
平成 17 年 7 月末頃	リバウンド期	足の発疹、唇の切れ、手指のカサカサ、手の皮膚の裂け、顔手足の赤み、ふくらはぎの皮むけが出ました。
最も強い時期	ピーク	ふくらはぎの皮がほぼめくれ、リンパ液が流れました。手袋がないと洗い物ができず、耳からリンパ液、眼鏡生活、全身の外用処置、足のむくみがありました。
同年 11 月頃	経過中	体の炎症は手足以外は治まりましたが、ふくらはぎの赤みが残りました。皮膚や体毛の白斑様変化もありました。
治療開始から 6 年目頃	長期経過	足の重さや炎症が楽になり始めました。
2016 年時点	中間報告	右足は数か所の炎症となり、左ふくらはぎの炎症が少し残っていました。

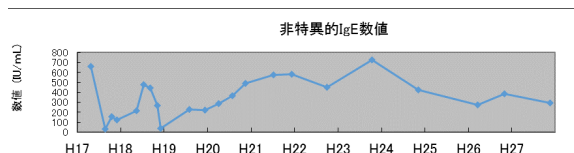
4. ピーク時期

症状が最も強かった時期は、ふくらはぎの皮が大きくめくれてリンパ液が流れ、足のむくみ、手指の裂け、耳からのリンパ液、眼鏡生活が重なった時期です。

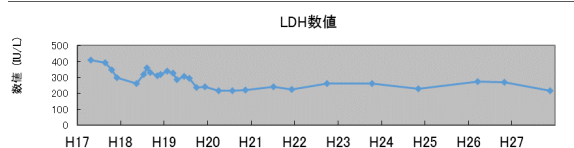
5. 検査値

項目	内容
IgE・LDH・リンパ球	2005 年から 2015 年にかけて複数回の検査値推移があります。画像として検査推移グラフを掲載します。

6. 写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



画像 1：検査値推移グラフ。



画像 2：LDH 推移グラフ。

7. 困りごと

- ・手袋をしないと洗い物ができない状態でした。
- ・足のリンパ液で敷きパッドが湿り、臭いもありました。
- ・普段の靴が入らず、靴紐をゆるめたスニーカーしか履けないほど足がむくみました。
- ・リバウンドから 3～4 か月はほとんど家から出ない生活でした。

8. 経過のまとめ

平成 17 年 7 月末頃から強いリバウンドを経験し、足のリンパ液やむくみで外出が難しい時期がありましたが、治療開始から 6 年目頃には足の重さや炎症が楽になり、2016 年時点では炎症は一部に残る状態まで変化しました。一時的な悪化やリバウンドを伴いながらも、通院経過の中で、皮膚状態に回復傾向がみられた症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。